

復建技術コンサルタント(仙台市)

防災意識高めよう

本寺小学校で特別授業

復建技術コンサルタント(本社・仙台市、遠藤敏雄代表取締役社長)は4月27日、一関市蔵美町の本寺小学校(佐々木竜哉校長、児童23人)で震災学習を行った。2008年6月に発生した岩手・宮城内陸地震を伝承し教訓を学ぼうと実施したもので、同校は内陸地震の震源地に近く、当時は避難所として利用された。学習では一関市建設部の阿部功建設部次長が、崩落した祭時大橋(まつるべお

ドローンによる被害調査デモを体験



おはし)を災害遺構とした経緯や意義を伝えたのに続いて、復建技術コンサルタントの庄司雄一技術長が、地震の脅威を振り返り、自分と地域を守る行動について児童らと意見を交わすなど、自助・共助の精神でお互いに助け合うことの大切さを学んだ。

その後は校庭でドローン飛行体験を実施。災害時の被害調査を想定したもので、児童らは搭載カメラか

ら送られてくる旧祭時大橋や周辺の映像を興味深く見守るとともに、その能力を体感した。

復建技術コンサルタントは、同地震で崩落した市内国道342号祭時大橋の復旧設計を手掛けており、今回初めて盛岡支店社員らが同小学校に赴いた。